

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：34304

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12348

研究課題名（和文）メキシコ北部の文学から考える歴史・文学史・現代

研究課題名（英文）Thinking about the history and our times from the literature of northern Mexico

研究代表者

仁平 ふくみ（Nihira, Fukumi）

京都産業大学・外国語学部・准教授

研究者番号：70780758

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：エドゥアルド・アントニオ・バラについて論文を執筆し、彼の創作がメキシコ北部の現実を扱いながらも文学作品にしかできない方法でそれを記録していることを述べた。またダビー・トスカーナについて発表した論文では、歴史や記憶の継承といった題材をメキシコ北部と重ねながらも、作品が他の言語の文学作品とも関係していることを述べた。上記の二人について学会発表や論文発表をすることで彼らが代表するメキシコ北部文学のある程度のパノラマを明らかにすることができた。研究を進める中で、知らなかった作家についても情報を得ることができ、メキシコ北部文学の豊かさや暴力の表象や女性作家といった今後の研究テーマを得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

メキシコ北部という移民や組織犯罪、人権侵害等の事象が集中して起きていながらあまり知られていない地域について、それが文学作品の創作にどのように影響しているのかを明らかにし、報道とは異なる文学のあり方について考察することができた。また文学史や歴史と関わらせながらメキシコ北部文学を論じることで、中央ではない場所の視点の重要性を示すことができたとともに、その視点が世界文学と接続する可能性を持つものでもあることを示した。現代を代表する作家を招聘してのイベントを行うことでメキシコ北部文学やメキシコ北部地域の問題点を身近に感じてもらう機会とした。

研究成果の概要（英文）：I have written an article about Eduardo Antonio Parra, which shows how his work deals with the realities of northern Mexico and documents them in a literary manner. In my article on David Toscana, I examined the theme of memory transmission and the interpretation of history. The analysis revealed that his work relates to literary works from different periods and languages. Also, by presenting at conferences and publishing papers on these two authors, I have been able to reveal some panorama of the northern Mexican literature they represented. In the course of my research, I was also able to obtain information about writers whom I had not known, and it helped me to obtain topics for future research, such as representations of violence and the writings of female authors. Additionally, I was able to invite both writers to Japan and organize three events open to the public.

研究分野：スペイン語圏文学

キーワード：メキシコ北部の文学 国境の文学 ガルデア メキシコ文学史 暴力 ダビー・トスカーナ エドゥアルド・アントニオ・バラ ヘスス・

1. 研究開始当初の背景

筆者が取り組んできた二十世紀メキシコを代表するファン・ルルフォの研究を続ける中で、メキシコ北部の作家たちがルルフォの影響を色濃く受けた作風を持つということからメキシコ北部文学を研究し始めた。次第に、メキシコ北部はアメリカ・メキシコ関係や現代史を知る上でも欠かせないにも関わらず日本での研究が少ないこと、とくに文学作品に関してはほとんど存在していないことがわかり、研究の必要性を感じた。

メキシコ北部には現代を考察する上で欠かせない国境や移民、暴力といった問題が集中している。その場所を舞台として描く作家たちがいかにメキシコ文学史やメキシコ史、世界文学と関わるのかを考察することは日本の文学研究、およびラテンアメリカ研究に有意義であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、メキシコ北部がメキシコ文学、ラテンアメリカ文学、および世界文学とどのような関係を取り結んでいるのかを、メキシコ北部文学のテクストを通じて考察することを目的としていた。現在に至るまでメキシコとアメリカの緩衝地帯として翻弄されてきたメキシコ北部は、メキシコシティなどの政治・文化の中心部とも、また隣接するアメリカ合衆国とも距離を取り続け、生活習慣や移民への考え方なども異なる地域である。メキシコ北部の文学に注目し、そこから世界文学やメキシコ文学を見直すことで、新しい文学史や文化変容の展望が可能となると考えた。具体的には、二十世紀メキシコ北部の文学がどのようにメキシコ文学、他国の文学と関わるのかという問いを基底とする。メキシコ文学の多様性、北部の人々の移住や歴史に対する認識や考え方が、フィクションである文学作品においてどのように表現されているのかを分析することが副次的な問いである。

3. 研究の方法

主にテクスト分析、インタビューや資料収集を中心として行なった。メキシコ北部の人々の歴史認識やメキシコシティやアメリカ合衆国に対する認識がフィクションによってどのように表現されているのかを考察・分析した。

大賞としたのは北部の歴史や伝統に意識的でありながらメキシコ北部文学を他のスペイン語文学、また世界文学と接続しようとしているダビー・トスカーナ (David Toscana) と土地に根差した文学の可能性を模索し、北部文学の代表的な論客であるエドゥアルド・アントニオ・パラ (Eduardo Antonio Parra) の作品を中心とした。

また、現代の北部作家にインタビューを行う、学会に参加し現地の研究者から情報を収集する、エディターと情報交換する、資料を収集するといった活動を通じてアクチュアルな情報収集を含めた研究活動も行った。

4. 研究成果

以下の点が明らかとなった。

1 メキシコ北部文学がメキシコ文学の伝統から外れているようでありながら、実は北部からメキシコシティの中央へと移動したアルフォンソ・レイェスやマルティン・ルイス・グスマンのような作家たちによって、メキシコ文学のメインストリームを担ってきたこと。また、メキシコ文学の代表的な作家であるファン・ルルフォとパラのような北部の作家は場所にこだわりそこからうまれる物語を重要視したという点において批評に近い関係にあることがわかった。また、北部の文学が1980年代に注目された際の中心人物としてのヘスス・ガルデアやダニエル・サダといった作家たちによって、不毛の地であり模倣地帯と認識されてきたメキシコ北部が文学的トポスとなってゆく過程も検証することができた。

2 メキシコ北部の視点から見た歴史と、北部の作家によるそのフィクション化の過程。主にトスカーナの作品から考察した。メキシコ北部は米西戦争について矢面に立たされた地域であり、彼の作品はメキシコ北部の歴史と現在、アメリカ合衆国との関係をフィクション化して語り直すものであると考えることができる。また、戦争の跡地としての荒廃したヨーロッパを語り、またメキシコを舞台としたロシア文学の登場人物のように生きようとする人々を描いた最新作から世界文学への接続も見てとれる。メキシコ北部を世界と接続するにあたってトスカーナの作品は示唆に富む。

3 メキシコ北部の文学が現代社会に生きるマージナルな人々や移民について文学なりの方法で記述や記録を試みているということ。パラやルイス・ウンベルト・クロスウェイト (Luis Humberto Crosthwaite)、ビクトル・ウゴ・ラスコン・バンダ (Victor Hugo Rascón Banda)、エルメル・メンドーサ (Elmer Mendoza) らの作品は国境沿いの地で展開される場合が多く、そこに暮らす人々の思考方法や伝統や習慣が作品内で重要な役割を果たしている。麻薬組織、

マキラドーラ、密入国など現代における問題とそれらが日常であるメキシコ北部の人々の表象をある程度確認することができた。

具体的な成果としては、発表した論文2本の外、最終年度に行なったパラとトスカーナを日本に招聘して行なった3度のトークイベントがある。東京ではインスティトゥ・セルバンテス・東京（テーマ「メキシコ文学における暴力の表象」）とメキシコ大使館（テーマ「ファン・ルルフォとメキシコ現代文学」）、京都では京都産業大学（テーマ「メキシコにおける暴力」）で行うことができた。インスティトゥ・セルバンテスではメキシコ北部の征服の歴史から暴力についての関係や現状を語ってくださり、大使館では作家の目線からルルフォの重要性とその影響について、ラテンアメリカ文学の広い視点も含めて語ってくださった。学生や研究者をはじめ、多くの方に興味をもっていただくことができた。イベントのために作成したHPは <https://nortemexico.info>

また、日本滞在中に彼らに複数回インタビューをすることができ、現在の作家がおかれている創作の状況や具体的なプロジェクトについても知ることができた。また、今後のさらなる研究課題となるであろう暴力の表象や北部出身の女性作家の作品などについても考察や資料収集を開始している。

また、メキシコ北西部出身の女性作家アンパロ・ダビラについての研究もすることができ、メキシコ北部の地域における幻想文学の可能性についても考察することができた。またダビラはフリオ・コルタサルとも交流をしており、メキシコ北部の文学とラテンアメリカ全体の文学との関わりの一端を考察することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 仁平ふくみ	4. 巻 63
2. 論文標題 メキシコ北部に生まれる幻想 -エドゥアルド・アントニオ・バラの三短編-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Hispanica	6. 最初と最後の頁 71-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4994/hispanica.2019.71	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 仁平ふくみ	4. 巻 10
2. 論文標題 瓦礫と音楽とアルコール -ダビートスカーナ『消え失せた町』-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学人文社会系研究科現代文芸論研究室紀要『れにくさ』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Fukumi Nihira
2. 発表標題 Preparaciones premortuorias: "El entierro" de Amparo Davila y "Liliana llorando" de Julio Cortazar
3. 学会等名 XVII Coloquio Internacional de Literatura Mexicana e Hispanoamericana (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fukumi Nihira
2. 発表標題 Memoria de vivos y muertos en Varsovia: La ciudad que el diablo se llevo, de David Toscana
3. 学会等名 XXV Congreso de Literatura Mexicana Contemporanea (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fukumi Nihira
2. 発表標題 "Tiempo destrizado": desear lo atemporal
3. 学会等名 III Coloquio Internacional de Literatura Fantastica. (Universidad Nacional Autonoma de Mexico) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 仁平ふくみ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 432
3. 書名 もうひとつの風景 ファン・ルルフォの創作と技法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>エドゥアルド・アントニオ・バラとダビー・トスカーナを招聘し2023年3月に3回のイベントを行うことができた。 3月3日「メキシコ北部の文学における暴力の諸相」於インスティトゥト・セルバンテス・東京 イベント録画（日本語版 https://youtu.be/ALF_NRKtmdg スペイン語版https://youtu.be/wVSM1MDpYfQ） 3月7日「ファン・ルルフォとメキシコ現代文学」於在東京メキシコ大使館 イベント録画（https://www.youtube.com/watch?v=X_7WzXBT2nE&t=36s） 3月9日「メキシコ・アメリカ国境における暴力」於京都産業大学</p>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------